

災害・オウム対策調査特別委員会報告資料

令和5年12月15日

報告資料件名	頁
1 令和5年度水害時個別避難計画に基づく移送訓練の実施結果について・・・	2

(福 祉 部)

災害・オウム対策調査特別委員会報告資料

令和5年12月15日

件名	令和5年度水害時個別避難計画に基づく移送訓練の実施結果について	
所管部課名	福祉部 福祉管理課	
内容	河川氾濫を想定した個別避難計画書事業について、総合防災訓練にあわせて、移送訓練を実施したので、以下のとおり報告する。	
	1 実施日時 令和5年11月12日（日）午前10時～11時30分	
	2 訓練協力者（要支援者） （1）医療的ケア児（1名）とその保護者 計3名 （2）車椅子使用の要支援者（1名）とその妻 計2名	
	3 訓練参加民間事業者	
支援内容	事業者名	備考
移送	(有)レーザーテクノロジー ジャパンらいふケア	ア 区内事業者 イ 患者等搬送事業者（民間救急）として東京消防庁の認定を受けている専門事業者 ウ 介護タクシー、ストレッチャー対応福祉車両所有 エ 令和4年度避難所への移送契約締結事業者
医療介護	(株)パソナライフケア	ア 看護師及び介護有資格者が実施 イ 令和4・5年度福祉避難所でのケア実施業務に係る契約締結事業者
4 訓練概要		
（1）訓練協力者の居住地 ⇄ 福祉避難所（あしすと）の移送		
ア 医療的ケア児世帯は自家用車による自力避難		
イ 車椅子使用者は上記移送事業者のストレッチャーへ移乗による移送		
（2）福祉避難所にて段ボールベッドを体験		
（3）トイレ誘導		
（4）避難所でのケア支援体験 新規		
ア 健康チェック：検温、血圧測定、酸素飽和濃度測定（医療的ケア児）		
イ 褥瘡予防のためのポジショニングケア（車椅子使用の要支援者）		

5 訓練参加者の感想

参加者	感想
要支援者	訓練について
	1 貴重な体験ができてよかった。以前からこういった訓練に参加したいと思っていた。
	2 移送事業者による車椅子からストレッチャーへの移乗やあしすとへの移送もスムーズで不安はなかった。
	3 ケア体験も経験できて良かった。
	プライベートtentについて
	4 プライベートtentは車イスへの移乗は一人では困難
	段ボールベッドについて
	5 段ボールベッドとプライベートtentは固く、寝るのが困難
	6 段ボールベッドに備え付けの枕は、子どもには高い。
移送事業者	訓練について
	1 区との訓練は初めてだったため、他の事業者も含めた連携の確認ができてよかった。
	2 車椅子からストレッチャーへの移乗・あしすとへの移送はスムーズに対応できた。
	3 ナビ通りに対象者の自宅に行くと裏手に行ってしまう辿り着けなかった。
	段ボールベッドについて
4 段ボールベッドの高さが低いため、ストレッチャーからの移乗が少し苦勞する。	
ケア支援事業者	訓練について
	1 災害時に利用される予定の方々の生の声が聞けたことで課題を明確にできた。
	2 訓練では、役割分担がきちんとされていてよかった。
	段ボールベッドについて
3 段ボールベッドの高さで高齢の要支援者の移乗等を行うことは、介護スタッフの身体的負担が大きい（少なくとも座面）43cm以上の高さが必要）。	
区（福祉部）	訓練について
	1 想定した到着時間より遅れが生じたため、予期せぬ事態への対応を経験できた。

6 訓練参加者からの要望

参加者	要望	検討状況
要支援者	だれでもトイレについて	
	1	だれでもトイレに、オムツ交換台が欲しい
	2	だれでもトレイに荷物を引っ掛けるフックなどが欲しい。
	プライベートテントについて	
	3	プライベートテントにオムツ交換や腰掛ができるような物や段差が欲しい。
	4	オストメイトに蓋が欲しい。荷物が落ちないようにして欲しい。
ケア支援事業者	その他	
	5	医療行為がある方は荷物が多くなるので、通路が広いと安心。
	災害時について	
	1	実際の避難時は悪天候も考えられ避難人数も多数になり、一人一人の状態把握は前もって知っておいた方がケアしやすいと思った。
	備蓄物品について	
2	対象者の年齢層が広いため、血圧計に乳児用や幼児用のマンシェットが必要と感じた。	
3	ポジショニングケアの際、クッションやタオルといった物品が必要。	

関係所管へ要望を伝え、検討を依頼する。

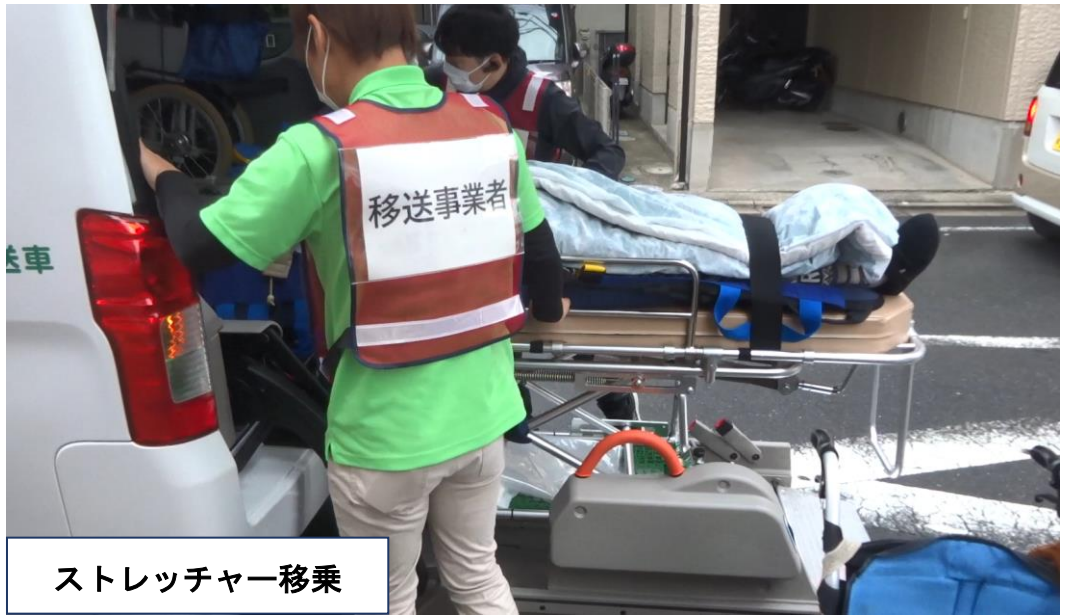
災害対策本部が設置された時点で可能となるため、事業者と協議する。

関係所管へ要望を伝え、検討を依頼する。

7 訓練での課題

参加者	課題	検討状況
区（福祉部）	移送支援について	今後も継続する。
	1 移送支援の際は、要支援者の身体の安全確保のため、運転手を含め2人以上で対応することが望ましい。	
	2 移送先の住所だけではスムーズに到着できないケースが発生することを想定し、確実な移送をするため、移送依頼する際に「家・土地・周辺の特徴」を記載する必要がある。	今後作成していくよう改善する。
	避難所について	受け入れ側施設でのマニュアル作成を行う。
	3 福祉避難所により車両誘導職員の配置の重要性複数車両が同時に来た場合のシミュレーションが必要	
	4 訓練規模を拡大し安全実施には受入れ側の事前訓練が必須	
	5 要支援者と対応する従事者の声かけが重要	
	段ボールベッドについて	
	6 段ボールベッドへの移乗について、体格の大きい方の場合リフトがないと危険が生じる可能性がある。	
	7 段ボールベッドへの移乗の際のベッドが動かない工夫が必要	

8 訓練記録



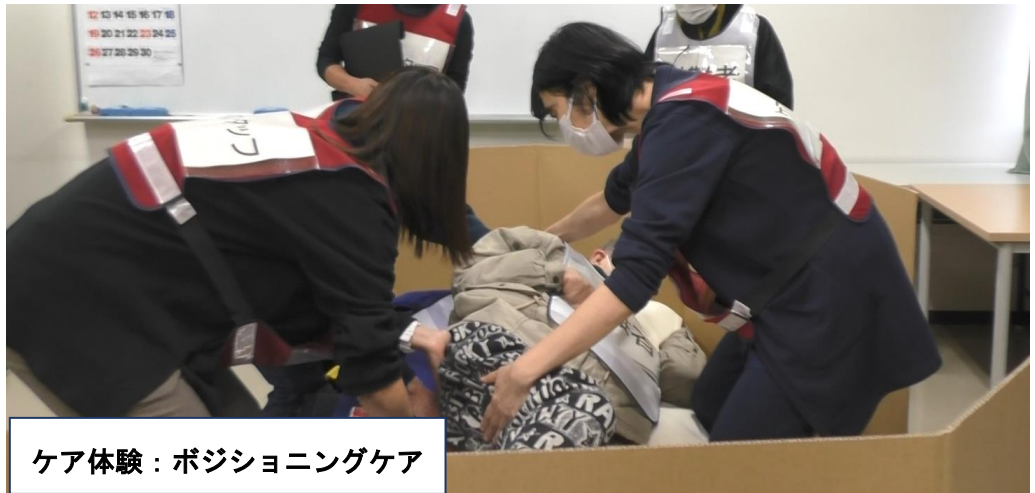
ストレッチャー移乗



あしすとへの移送



段ボールベッドへの移乗



ケア体験：ポジショニングケア



ケア体験：健康チェック

9 今後の方針

要支援者の避難の実効性を高め、河川氾濫による危機感を共有するため、以下の訓練について、規模・内容ともに広げながら実施していく。

(1) 個別避難計画に基づく移送訓練の継続

ア 要支援者への訓練実施の協力要請

(ア) 寝たきり等の重篤な方が対象であり、参加者を募るのが難しい状況のため、計画作成時から訓練実施の声かけを適宜進めていく。

(イ) 視覚障がい者等他の障がい者世帯を対象とした訓練を実施する。

イ 実施箇所の拡大

水害時に開設を想定している他の施設での実施する。

ウ 移送支援事業者との連携

要支援者の移送に係る契約を締結している他の事業者で実施する。

エ 訓練実施内容の拡大

段ボールベッドの体験に加え、要配慮者用居室での一人あたりのスペースや通路の確保など福祉避難所の受け入れ態勢の構築も盛り込んだ内容を検討する。